

事業評価シート

重点・リーディング事業一覧

資料 2

重点事業

重点事業番号	重点事業名	内容		具体的な取り組み	対応する基本方針
1	山林と農地の再生と活用	①山林と農地の再生に取り組みます	不法投棄など生活環境の悪化や生態系の保全の妨げの要因となっている山林や耕作が行われていない農地の再生に取り組みます。	不法投棄や景観など生活環境悪化の要因となっている山林の伐採を実施する。	1
		②事業者等と連携して里山の環境・資源を活用します	山林の再生により伐採された木材の搬出など、里山の資源を有効に活用するために必要なインフラの整備を実施します。民間事業者等と連携・協働し、持続可能な保全につながる、里山環境の活用に取り組みます。	木材搬出のための作業路を整備する。 里山の環境を活用した事業を実施する。	
		③里山で活動したい人を受け入れる環境を整備します	里山の環境に興味や親しみを持つ人や団体・企業等が参画しやすい環境を整えます。 また、地域住民と来訪者の交流の機会の創出や場の整備、来訪者の私有地への立ち入りを抑制するための道標の設置など、地域住民と来訪者にとって良い関係性が構築できるよう取り組みます。	活動したい人が地域にスムーズに入っていけるようしゅみを整える。	
				散策ルートを整備し、案内板や道標を設置する。	
達成指標	新たな山林に着手した面積(㎡)	現状値／0(㎡)	2026年度／80,000(㎡)	2031年度目標値／160,000(㎡)	
対応するSDGsのGOAL					
重点事業番号	重点事業名	内容		具体的な取り組み	対応する基本方針
2	活動に参画する団体数の確保と支援	●品質：土地の活用及び木材搬出入に必要な空間整備の具体的な検討を進めることができました。 ●地域連携：事業に対する地域住民の理解を求めることができました。		地域の人との交流や里山の魅力に直接ふれあう機会を充実していくことで多様な人が里山を訪れ、関わりを持つきっかけを増やす。	3,4
				団体・企業等と連携して里山の資源を活用する活動やイベントの開催を支援する。	
				里山での活動が将来に渡って持続可能なものとなるよう必要な支援を行う。	
達成指標	活動に参画する団体数	現状値／7団体	2026年度／12団体	2031年度目標値／17団体	
対応するSDGsのGOAL					
重点事業番号	重点事業名	内容		具体的な取り組み	対応する基本方針
3	「まちだの里山発信」戦略的な情報発信	まちだの里山の魅力や里山での取組を内外に発信し、認知度の向上や来訪者の促進につなげます。また、里山環境の活用や保全に関心のある企業等へ情報を発信し、提供し参画を促進します。		まちだの里山での様々な取組を、ICTを活用して発信する。	2
				「まちだの里山」に対する地域内外の認識や認知度向上に取り組む。	
				里山での活動に興味がある企業・団体等に対して重点的に情報を発信する。	
達成指標	まちだの里山の来訪者数	現状値／7団体	2026年度／12団体	2031年度目標値／17団体	
対応するSDGsのGOAL					

小山田エリア **だれもが居心地のよさを感じることができる里山環境の活用**

リーディングプロジェクト番号	プロジェクト名	内容	具体的な取り組み						対応する基本方針																													
1	感里の整備に場を備え近き山体	①交流回遊拠点を整備します	週末ごとに自転車や散策を楽しむ人が訪れていることから、来訪者の休憩や来訪者と地域住民の交流の場など、里山をより身近に感じ楽しむことができる拠点となる施設を整備します。						1, 2, 3, 4																													
		②里山環境を活用する場を整備します	地域で「おこしの森」と言われている小山田小学校北側の山林をはじめ、周辺の山林の再生を図り、地域の子どもたちや住民、来訪者が森を楽しみ、マウンテンバイクやドローン、ジップラインなどをはじめとする活動ができる場を整備します。																																			
		③木材を活用できる場を提供します	山林の再生により発生した伐採材を有効に活用し、木材の加工や製材、加工品の販売や木工体験など多くの方が木材に触れ、楽しむことができる場を提供します。																																			
対応するSDGsのGOAL	  																																					
スケジュール	<table><tr><th colspan="4">プロジェクト1</th><th colspan="5">里山を身近に体感するための場の整備</th></tr><tr><th colspan="4">対応する基本方針</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th><th>2025</th><th>2026</th><th>後期5年</th></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>①③施設機能の検討 ②整備箇所の選定、活用</td><td>事業手法の検討 手法の検討</td><td>事業者の選定</td><td>設計</td><td colspan="2">工事・管理運営</td></tr></table>									プロジェクト1				里山を身近に体感するための場の整備					対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年	1	2	3	4	①③施設機能の検討 ②整備箇所の選定、活用	事業手法の検討 手法の検討	事業者の選定	設計	工事・管理運営	
プロジェクト1				里山を身近に体感するための場の整備																																		
対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年																													
1	2	3	4	①③施設機能の検討 ②整備箇所の選定、活用	事業手法の検討 手法の検討	事業者の選定	設計	工事・管理運営																														
リーディングプロジェクト番号	プロジェクト名	内容	具体的な取り組み						対応する基本方針																													
2	域農の賑わいの創出しゾーン！地	地域の農業従事者や住民、企業等との連携により、来訪者が「農」をテーマとした体験や農産物の購入など地域住民と交流ができる場や機会を充実し、日常的な地域の賑わいの創出につなげます。							1, 2, 3																													
		対応するSDGsのGOAL	  																																			
		スケジュール	<table><tr><th colspan="4">プロジェクト2</th><th colspan="3">農を活用した地域の賑わいゾーンの創出</th></tr><tr><th colspan="4">対応する基本方針</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th><th>2025</th><th>2026</th><th>後期5年</th></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>調整</td><td>試行</td><td>実施</td><td colspan="2"> </td><td></td></tr></table>							プロジェクト2				農を活用した地域の賑わいゾーンの創出			対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年	1	2	3	4	調整	試行	実施					
プロジェクト2				農を活用した地域の賑わいゾーンの創出																																		
対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年																													
1	2	3	4	調整	試行	実施																																
リーディングプロジェクト番号	プロジェクト名	内容	具体的な取り組み						対応する基本方針																													
3	地域が課題解決につながる取組の推進	①環境の保全につながる事業を実施します	再生した山林等を活用し、地域の賑わいの創出を図り、持続可能な環境の保全につながる事業を地域住民や来訪者、団体・企業等と連携・協働して実施します。						1, 3, 4																													
		②（仮称）里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施します	里山に携わるすべての人々による、（仮称）里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施し、里山の清掃活動を通じて、里山環境が抱える課題や環境保全への理解を里山への親しみや愛着につなげ、里山環境の保全を持続可能なものとします。																																			
		③散策ルートの再整備とマップの作製の取り組みです	荒廃して通行が困難になった道を再整備します。あわせて、道標の設置、散策ルートを示したマップの作製を行うことで、私有地への立ち入りをなくしていきます。																																			
対応するSDGsのGOAL	  																																					
スケジュール	<table><tr><th colspan="4">プロジェクト3</th><th colspan="5">地域が課題解決につながる取組の推進</th></tr><tr><th colspan="4">対応する基本方針</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th><th>2025</th><th>2026</th><th>後期5年</th></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td colspan="5">内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行っていきます。</td><td>事業化</td></tr></table>									プロジェクト3				地域が課題解決につながる取組の推進					対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年	1	2	3	4	内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行っていきます。					事業化
プロジェクト3				地域が課題解決につながる取組の推進																																		
対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年																													
1	2	3	4	内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行っていきます。					事業化																													

リーディングプロジェクト

小野路エリア 豊かな自然・歴史資源や農環境を活用した交流の促進

リーディングプロジェクト番号	プロジェクト名	内容	具体的な取り組み						対応する基本方針																												
1	再生林の活用	小野路エリアの放置竹林の再生を図り、竹材を活用した体験プログラム等を企画・実施します。竹材に触れる機会や楽しみを通じて、里山への親しみや環境保全への理解、来訪者の促進につなげます。 町田産のタケノコの水煮やメンマなど竹を材料とする加工食品について、団体・企業等との連携・協働により食品の開発・販売を行い、持続可能な新たな循環サイクルのモデルを構築するとともに、地域の活性化や来訪者促進につなげます。								1, 2, 3, 4																											
対応するSDGsのGOAL																																					
スケジュール	<table><tr><th colspan="4">プロジェクト1</th><th colspan="4">竹林の再生と活用</th></tr><tr><th colspan="4">対応する基本方針</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th><th>2025</th><th>2026</th><th>後期5年</th></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>実施</td><td colspan="4"></td><td></td></tr></table>										プロジェクト1				竹林の再生と活用				対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年	1	2	3	4	実施				
プロジェクト1				竹林の再生と活用																																	
対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年																												
1	2	3	4	実施																																	
リーディングプロジェクト番号	プロジェクト名	内容	具体的な取り組み						対応する基本方針																												
2	地域課題の解決に向けた取組の推進	①散策ルートを再整備します 散策などを目的とした来訪者が、里山を楽しむことができるように新たな散策ルートの整備や散策ルートの草刈りなどを実施し、散策しやすい環境を整えます。また、来訪者が私有地に立ち入ることがないように道標等を設置し、注意を促します。 ②（仮称）里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施します 里山に携わるすべての人たちによる、（仮称）里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施し、里山の清掃活動を通じて、里山環境が抱える課題や環境保全への理解を里山への親しみや愛着につなげ、里山環境の保全を持続可能なものとします。								1, 2, 3, 4																											
対応するSDGsのGOAL																																					
スケジュール	<table><tr><th colspan="4">プロジェクト2</th><th colspan="4">地域の課題解決につながる取組の推進</th></tr><tr><th colspan="4">対応する基本方針</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th><th>2025</th><th>2026</th><th>後期5年</th></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td colspan="4">内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行っていきます。</td><td>事業化</td></tr></table>										プロジェクト2				地域の課題解決につながる取組の推進				対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年	1	2	3	4	内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行っていきます。				事業化
プロジェクト2				地域の課題解決につながる取組の推進																																	
対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年																												
1	2	3	4	内容・手法を検討し、地域で調整を図ったのち、適宜試験的に実施し、検証・評価を行っていきます。				事業化																													

リーディングプロジェクト

三輪エリア 自然・歴史・文化資源にふれあえる里山環境の実現

リーディングプロジェクト番号	プロジェクト名	内容	具体的な取り組み	対応する基本方針																											
1	地域を共有できる魅力・関係づくり	美しい谷戸田のある風景など、豊かな自然環境の保全に向けて活動する団体との情報交換や必要に応じた支援に取り組みます。また、多くの人が自然環境を通じた学びや歴史にふれあえる機会を充実します。		2, 3																											
対応するSDGsのGOAL	 																														
スケジュール	<table><tr><th colspan="4">プロジェクト1</th><th colspan="4">地域の取組や魅力・価値を共有できる関係づくり</th></tr><tr><th colspan="4">対応する基本方針</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th><th>2025</th><th>2026</th><th>後期5年</th></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>検討</td><td>調整</td><td>実施</td><td colspan="2">→</td><td></td></tr></table>				プロジェクト1				地域の取組や魅力・価値を共有できる関係づくり				対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年	1	2	3	4	検討	調整	実施	→	
プロジェクト1				地域の取組や魅力・価値を共有できる関係づくり																											
対応する基本方針				2022	2023	2024	2025	2026	後期5年																						
1	2	3	4	検討	調整	実施	→																								

重点事業評価シート

重点事業 1		山林と農地の再生と活用			
対応する基本方針		里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる
①山林と農地の再生に取り組みます		不法投棄など生活環境の悪化や生態系の保全の妨げの要因となっている山林や耕作が行われていない農地の再生に取り組みます。			
具体的な取り組み		不法投棄や景観など生活環境悪化の要因となっている山林の伐採を実施する。			
取り組み実績		【山林や竹林の再生・整備】 ●小山田及び小野路エリア： ・未利用の市有山林の再生・活用を図った。 ・市有山林におけるナラ枯れ被害について、2023年度から概ね3年間で枯損木の伐採を行う計画を立て、伐採を実施した。 ●小山田エリア：鶴見川源流保水の森で活動するNPO法人と連携し枯損木を伐採した。 ●相原エリア： ・一般財団法人によって人工林の間伐を実施した（2021年度～2023年度 事業完了）。 ・山林を所有する一般財団法人が境川源流周辺のハイキングコースを整備した。 【農地の再生・整備】 ●小山田エリア：協定を締結した農業者が竹林整備及びタケノコや幼竹の生産収穫を実施した。 ●三輪エリア：耕作が行われていない民有農地を市内の社会福祉法人に斡旋した。 【森林環境譲与税を活用した広域連携による山林の再生】 ●都内連携 ・市内の木材（広葉樹）の活用にあたり、多摩産材の認定や森林環境譲与税活用に関して東京都と意見交換を実施した。 ・都内連携：「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会に参加し、現場体験について都内の自治体と連携し実施した。 ●官学連携：学校法人と連携し、小野路の竹林を活用した企画を実施した。			
評価	成果	●品質：計画的な枯損木伐採、活用を見据えた山林再生に行政・市民団体等が連携して取り組み、市有山林の植生状態が改善しました。 ●担い手：山林や耕作放棄地の整備・活用を行なう農業者や市民団体の発掘が行えました。 ●資源活用 ●観光：伐採木や竹の活用方法を検討し、市民団体や教育機関と連携して実践することができました。			
	課題	●品質：ナラ枯れ被害木は現在も確認されているほか、倒木被害や草地繁茂、竹の越境など、安全確保の点において市有地の日常的な維持管理が欠かせない状況です。 ●投資：樹木の伐採本数や維持管理費は増加傾向にあります。 ●資源活用：伐採木など、竹以外の里山資源の活用方法を増やす必要があります。			

②事業者と連携して里山の環境・資源を活用します		山林の再生により伐採された木材の搬出など、里山の資源を有効に活用するために必要なインフラの整備を実施します。民間事業者等と連携・協働し、持続可能な保全につながる、里山環境の活用に取り組みます。
具体的な取り組み	木材搬出のための作業路を整備する。	
取り組み実績	●小山田エリア：山林の再生を目的に、資材の搬出入や伐採木の搬出に必要な作業路整備のための測量、樹木調査、地権者交渉、概略設計を実施し、道路線形を確定した。	
評価	成果	●品質：土地の活用及び木材搬出入に必要な空間整備の具体的な検討を進めることができました。設計内容を一部変更し、より安全面等に配慮した内容にすることができました。 ●地域連携：事業に対する地域住民の理解を求めることができました。
	課題	●品質：設計内容の変更が生じ、当初からスケジュールの延長を行いました。 ●投資：安全面等の理由から設計内容に変更が生じ、当初想定から整備費用が増加する見込みです。
具体的な取り組み	里山の環境を活用した事業を実施する。	
取り組み実績	●商工会議所や市内事業者と連携し、市内産メンマの事業化について意見交換を実施した。 ●小野路エリア ・民間企業および地域の団体と連携し、小野路エリアの竹（幼竹）を活用した加工食品（メンマ）を試作した。 ・団体が加工した市内産メンマを、市職員を対象に販売し、メンマおよび竹の活用に関するアンケート調査を実施した。 ●三輪エリア：山林の活用について、学校法人等と意見交換を実施した。 ●町田青年会議所と協働し、「まちだSDGsアワード2024～里山を活用した循環型ローカルSDGsの構築～」を開催し連携・協働の必要性を周知するとともに、里山を活性化させるアイデアを募集した。 ●シイタケ原木活用 ・町田市農業協同組合と市有山林伐採木のシイタケ原木活用について協定を締結した。 ・市内の社会福祉法人が市有山林伐採木をシイタケ原木として活用できる仕組みを構築した。 ●都内連携：「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会に参加し、現場体験について都内の自治体と連携し実施した。 ●官学連携 ・学校法人と連携し、小野路の竹林を活用した企画を実施した。 ・学校法人と事業連携協定を締結した。 ●里山の木活用の試行として、市内外の企業と連携し、伐採した街路樹（けやき等）を活用した玩具や椅子・テーブル、ネームカードホルダー等を試作。ネームカードホルダーは市職員にモニター販売し、アンケートを実施。玩具は保育園や子どもセンターへ配布しアンケートを実施した。	
評価	成果	●ブランディング ●資源活用 ●観光 ・民間事業者や地域団体と連携し、幼竹を町田市産の加工食品として、試作から試験販売まで実施することができました。 ・家具や玩具、ネームカードホルダーの試作など、「まちだの木」の活用と認知度向上が行えました。 ●資源活用：伐採木を活用するための仕組みを構築することができました。 ●担い手：学校法人と官学連携の仕組みを構築することができました。 ●学び：学生や区民を対象に、まちだの里山について学んでもらう仕組みが構築できました。
	課題	●ブランディング：市民還元、本格流通を見据えた取り組みの推進、仕組みの構築が必要です。 ●資源活用：伐採木など、竹以外の里山資源の活用方法を増やす必要があります。 ●投資：更なる資源活用の促進のため資金調達が必要です。

③里山で活動したい人を受け入れる環境を整備します		里山の環境に興味や親しみを持つ人や団体・企業等が参画しやすい環境を整えます。また、地域住民と来訪者の交流の機会の創出や場の整備、来訪者の私有地への立ち入りを抑制するための道標の設置など、地域住民と来訪者にとって良い関係性が構築できるよう取り組みます。			
具体的な取り組み	活動したい人が地域にスムーズに入っていけるようしくみを整える。				
取り組み実績	●里山での活動に興味を示す企業と現地見学を実施し、里山環境を活用した取組に参画するために必要な諸条件について確認した。 ●小山田エリア：「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設」の整備について、地域住民と事業者を交えワークショップや意見交換を行った。結果を踏まえ、里山環境の再生と活用の拠点となり、里山に関わる人を増やす施設として整備することや都市計画上の制限・整備エリア等について方向性を定めた基本構想を策定した。 また、拠点施設の機能や里山環境の活用に関連する事業者を対象にマーケットサウンディング調査を実施し、事業者参画につながる提案を受け付けた。 サウンディング調査の結果を踏まえ、里山の資源量調査（樹木の状態調査）を実施し、事業者へヒアリングを行った。 ●民間事業提案制度を活用し里山環境の活用に関連する事業提案を募集した。				
評価	成果	●担い手 ●地域連携 拠点施設の将来的な運営を見据えた連携体制の検証を行うことができました。 ●担い手 ●資源活用 学校法人と官学連携の仕組みを構築することができました。拠点施設や里山の活用について、民間企業の市場ニーズを確認することができました。 ●資源活用：里山の植生について調査し、資源活用の可能性を検討することができました。 ●学び：学生や区民を対象に、まちだの里山について学んでもらう仕組みが構築できました。			
	課題	●担い手：官学連携について、より高い効果と実効性をねらった産官学連携への発展が必要です。民間事業提案制度などの推進と、提案内容の実現性を高めることが必要です。 ●地域連携：拠点施設について、地域と連携した円滑な施設運営の実効性を高めるための体制作りの早期実施が求められます。			
具体的な取り組み	散策ルートを整備し、案内板や道標を設置する。				
取り組み実績	実績なし				
評価	成果	実績なし			
	課題	品質：里山への来訪者を増やすため、安全安心な里山空間整備の推進が必要です。			
達成指標	新たな山林再生に着手した面積（㎡） （累計）	計画策定時	2025年度達成状況	2026年度目標値	2031年度目標値
		0（㎡）	69,768（㎡）	80,000（㎡）	160,000（㎡）
総合評価	◎	●品質：前期実行計画期間の指標は概ね達成しています（2026年度5月時点）。 ●資源活用 ●担い手 ●地域連携 資源活用の試行、地域や団体・企業、教育機関との連携について多くの実績を残すことができました。 ●品質 ●投資 ●担い手 ●地域連携 ・里山環境の持続的な保全と活用に対し、維持管理や空間整備の財政負担が課題となっています。 ・これまでの連携を踏まえた、新たな産学官連携への発展が必要です。			

重点事業評価シート

重点事業 2		活動に参画する団体や企業・個人など、担い手の確保と支援			
対応する基本方針		里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる
里山の環境を活用する団体や企業等の活動が継続し、持続可能な里山環境の保全につながるよう必要に応じた支援を行います。 より多くの人々が里山に関わり訪れることができるように、新たに活動を行う団体等への助言や支援を行います。					
具体的な取り組み		地域のひととの交流や里山の魅力に直接ふれあう機会を充実していくことで多様な人が里山を訪れ、関わりを持つきっかけを増やす。			
取り組み実績		●小野路エリア：市民団体へ働きかけや支援を行い、山林の再生に着手した。地域農家等と連携したイベントなどを実施した。 ●市内の公園や緑地、農地、里山等の活用推進を目的としたプラットフォーム「まちだみどり活用ネットワーク」を構築し、イベント等を様々な担い手の連携により実施した。 ●地域の団体や法人、施設管理者などによる里山資源を活用したワークショップ等を実施した。 ●「まちだの木」活用プロジェクトの周知啓発イベントで、小山田・小野路エリアで竹林整備に取り組む市民団体の活動をPRした。			
評価	成果	●地域連携：団体と地域の連携によるイベント実施が行われました。様々な主体が参加するプラットフォームが形成されました。 ●担い手：様々な主体が参加するプラットフォームが形成されました。 ●ブランディング ●観光 SNSやHPを活用した周知や、イベント開催を通じた取り組み内容の発信を積極的に行い、「まちだの木」や市民団体の里山活動について認知度を高めることができました。			
	課題	●ブランディング ●観光 各施策の段階的な展開に合わせたターゲット設定・広報手法等を検討し、実践することが必要です。 ●地域連携：既存のプラットフォーム等を活用し、地域全体で里山活用を促進することが必要です。 ●担い手：里山との関わり方を多様化し、担い手として関わることへのハードルを低くしていく必要があります。			

具体的な取り組み		団体・企業等と連携して里山の資源を活用する活動やイベントの開催を支援する。			
取り組み実績	●小山田エリア ・地域住民や団体、企業等と連携し、「里山体験クラブ感謝祭 里山クリーンアップ大作戦」として木工体験や里山に触れる機会の提供や地域の清掃活動を実施した。 ・市民団体により未利用の市有山林の活用を図った。 ●小野路エリア：町内会や公共施設の指定管理者と協働し、里山散策と清掃活動を実施した。 ●三輪エリア：地区協議会と連携し、「鶴川里山勉強会」を実施した。 ●「まちだの木」活用プロジェクトのPR展示企画を開催し、市内の木材加工事業者と連携してまちだの木を使用した木製小物作成のワークショップを実施した。				
評価	成果	●地域連携 ●担い手 ●観光 地域が団体や企業と連携することで、里山活用だけでなく清掃を通じた地域環境の向上も実現することができました。 ●ブランディング：PR展示企画を通じて、様々な世代の方に「まちだの木」について周知することができました。			
	課題	●ブランディング ●観光：各施策の段階的な展開に合わせたターゲット設定・広報手法等を検討し、実践することが必要です。 ●担い手：里山との関わり方を多様化し、担い手として関わることへのハードルを低くしていく必要があります。			
具体的な取り組み		里山での活動が将来に渡って持続可能なものとなるよう必要な支援を行う。			
取り組み実績	●企業を対象としたふるさと納税事業に寄付用途として「里山環境の保全を行う団体の活動の支援」を位置づけた。パンフレット作成し事業参画PRを行い、事業者から寄附を受けた。				
評価	成果	●投資：事業者から寄付を受けることができました。 ●ブランディング：企業版ふるさと納税の制度を通じ、「まちだの里山」について周知を行うことができました。			
	課題	●投資 ●ブランディング 「まちだの里山」に対して価値を感じてもらい更なる寄付や投資を促進すること、寄付金や投資の有効活用を検討し、実践することが必要です。			
達成指標	活動に参画する団体数（協定締結団体数）	計画策定時	2025年度達成状況	2026年度目標値	2031年度目標値
		7団体	12団体	12団体	17団体
総合評価	○	●担い手：前期実行計画期間の指標を達成できました（2026年度5月時点）。 ●地域連携 ●担い手 ●観光 団体と地域の人々が連携するなど、多様な里山活用の取り組み方が実践されました。 ●投資 ●ブランディング ●担い手 ・「まちだの里山」に対して価値を感じ、支援したいと思う人々の存在が多様な取り組みを通じて明確になりました。 ・「まちだの里山」の価値の周知による、更なる担い手の確保や支援体制の整備が必要です。			

重点事業評価シート

重点事業 3		「まちだの里山」の戦略的な情報発信			
基本方針への貢献度		里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる
まちだの里山の魅力や里山での取組を内外に発信し、認知度の向上や来訪者の促進につなげます。また、里山環境の活用や保全に関心のある企業等へ情報を発信し、提供し参画を促進します。					
具体的な取り組み		まちだの里山での様々な取組を、ＩＣＴを活用して発信する。			
取り組み実績		●活動団体と協働し、ＳＮＳにて小野路エリアの里山で行うイベント参加者募集など活動を発信し、参画を促した。			
評価	成果	●ブランディング ●担い手 ●観光 ・SNSを通じたイベント情報の発信を行うことができました。 ・団体自身による積極的な情報発信が行われています。			
	課題	●ブランディング ●観光：各施策の段階的な展開に合わせたターゲット設定・広報手法等を検討し、実践することが必要です。			
具体的な取り組み		「まちだの里山」に対する地域内外の認識や認知度向上に取り組む。			
取り組み実績		●小野路エリア：複数のメディアに小野路エリアで活動する団体が実施する放置竹林に対する取組（メンマづくりワークショップなど）が取り上げられた。 ●「まちだの里山」をメインニュースとした広報を発行し、様々な世代へ里山の魅力や価値を伝えることができた。 ●複数のメディアで「まちだの里山」や里山で活動する団体の取組が紹介されるなど、市内外に発信することができた。 ●内閣府が推進する「地方創生SDGs」と連携した民間企業による「地域の魅力に気づく・興味を持つきっかけを作るための企画」に参加し、Web記事が掲載されたほか、小田急線海老名駅構内でのイベントに出展した。 ●企業と連携し、農産物の収穫体験や里山の食材を使った料理教室や散策などを体験する「里山体験モニターツアー」を実施した。 ●地域の団体や法人、施設管理者などによる里山資源を活用したワークショップ等を実施した。 ●町田青年会議所と協働し、「まちだSDGsアワード2024～里山を活用した循環型ローカルSDGsの構築～」を開催し連携・協働の必要性を周知するとともに、里山を活性化させるアイデアを募集した。 ●東京都公園協会主催する「TOKYOつながる里山サミット2025」に参加し、まちだの里山の取り組みをPRした。 ●事業連携協定を締結した学校法人と、「まちだの里山とまちだの木活用フォーラム」を開催した。 ●「まちだの木」活用プロジェクト ・「まちだの木」活用プロジェクトの周知啓発イベントで、小山田・小野路エリアで竹林整備に取り組む市民団体の活動をPRした。 ・市が主催する環境に関するイベント（ECOtoフェスタ）に参加し、パネル展示とワークショップを実施して、里山環境や「まちだの木」の活用について情報発信を実施した。 ●活動団体と協働し、ＳＮＳにて小野路エリアの里山で行うイベント参加者募集など活動を発信し、参画を促した。			
評価	成果	●ブランディング ●観光 イベント、メディア掲載などを通じて多様な層へ取り組みの情報発信を行うことができました。また波及効果として、各種取り組みが里山活用のモデルケースとして紹介される機会が増加しました。			
	課題	●ブランディング ●観光 ●担い手 ・各施策の段階的な展開に合わせたターゲット設定・広報手法等を検討し、実践することが必要です。また、モデルケースとして認知を広げる一方で「まちだの里山」の特色の多角的な分析や比較を行うなど、取り組み発展に向けた研究が求められます。 ・発信した情報に興味を持った方が実際に里山に訪れる・取り組みに関わる機会の増加が求められます。			

具体的な取り組み	里山での活動に興味がある企業・団体等に対して重点的に情報を発信する。				
取り組み実績	●活動団体と協働し、SNSにて小野路エリアの里山で行うイベント参加者募集など活動を発信し、参画を促した。 ●企業を対象としたふるさと納税事業に寄付用途として「里山環境の保全を行う団体の活動の支援」を位置づけた。パンフレット作成し事業参画PRを行い、事業者から寄附をうけた。 ●複数のメディアで「まちだの里山」や里山で活動する団体の取組が紹介されるなど、市内外に発信することができた。 ●民間事業提案制度を活用し里山環境の活用に関連する事業提案を募集した。				
評価	成果	●担い手：官学連携の仕組みを構築できました。民間企業の市場ニーズを確認することができました。 ●ブランディング ●観光 各種取り組みの波及効果として、都市近郊における里山活用のモデルケースとして紹介される機会が増加しました。			
	課題	●ブランディング ●観光 各施策の段階的な展開に合わせたターゲット設定・広報手法等を検討し、実践することが必要です。 また、モデルケースとして認知を広げる一方で「まちだの里山」の特色をさらに分析し、全国の優良事例との比較を行うなど、取り組み発展に向けた研究が求められます。			
達成指標	まちだの里山の来訪者数（年間）	計画策定時	2025年度達成状況	2026年度目標値	2031年度目標値
		26,711 人	34,540 人	32,000 人	68,000 人
総合評価	◎	●資源活用 ●ブランディング ●観光 前期実行計画期間の指標を達成できました。 ●ブランディング ●観光 基本的な情報発信は行われている一方、より戦略的な情報発信の手法検討・実践が必要です。			

リーディングプロジェクト評価シート

小山田エリア	リーディングプロジェクト1	里山を身近に体感するための場の整備			
対応する基本方針		里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる
①交流回遊拠点を整備します					
週末ごとに自転車や散策を楽しむ人が訪れていることから、来訪者の休憩や来訪者と地域住民の交流の場など、里山をより身近に感じ楽しむことができる拠点となる施設を整備します。					
取り組み実績	「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設」の整備について、地域住民と事業者を交えワークショップや意見交換を行った。結果を踏まえ、里山環境の再生と活用の拠点となり、里山に関わる人を増やす施設として整備することや都市計画上の制限・整備エリア等について方向性を定めた基本構想を策定した。 また、拠点施設の機能や里山環境の活用に関連する事業者を対象にマーケットサウンディング調査を実施し、事業者参画につながる提案を受け付けた。サウンディング調査の結果を踏まえ、里山の資源量調査（樹木の状態調査）を実施し、事業者へヒアリングを行った。				
評価	成果	●品質 ●投資 ●資源活用 基本構想により、里山の空間活用について方針をまとめることができました。また、サウンディング調査や資源量調査を通じ、事業の市場価値や資源活用の可能性を検討することができました。 ●地域連携：ワークショップを通じ、地域住民のニーズを把握することができました。 ●ブランディング：「まちだの里山」の活用保全の重要性を地域住民へ周知することができました。また、サウンディング調査等を通じて「まちだの里山」の活用意義について民間事業者に周知を行うことができました。			
	課題	●品質 ●投資 ●資源活用 計画当初からスケジュールが変更されました。 事業者が施設運営参入に意欲を持てる運営手法やビジョンの設定が必要です。 基本構想に基づき、効果的な施設整備地・規模・機能・利用シーン・整備及び運営手法等の検討が必要です。 ●地域連携 ●担い手 施設と地域の円滑な連携実現のため、地域住民を巻き込んだ空間活用の検証が必要です。 ●資源活用：「まちだの木」活用プロジェクトなどを通じ、里山の木の活用実績を増やす必要があります。			

②里山環境を活用する場を整備します

地域で「おこしの森」と言われている小山田小学校北側の山林をはじめ、周辺の山林の再生を図り、地域の子どもたちや住民、来訪者が森を楽しみ、マウンテンバイクやドローン、ジップラインなどをはじめとする活動ができる場を整備します。

取り組み実績	●市有山林を再生し、地域住民などにより民有地を活用した取組が行われている小山田おこしの森との一体的な活用を図った。 ●山林の再生を目的に、資材の搬出入や伐採木の搬出に必要な作業路整備のための測量、樹木調査、地権者交渉、概略設計を実施し、道路線形を確定した。	
評価	成果	●品質：土地の活用及び木材搬出入に必要な空間整備の具体的な検討を進めることができました。設計内容を一部変更し、より安全面等に配慮した内容にすることができました。 ●地域連携：事業に対する地域住民の理解を求めることができました。
	課題	●品質：設計内容の変更が生じ、当初からスケジュールの延長を行いました。 ●投資：安全面等の理由から設計内容に変更が生じ、当初想定から整備費用が増加する見込みです。

③木材を活用できる場を提供します

山林の再生により発生した伐採材を有効に活用し、木材の加工や製材、加工品の販売や木工体験など多くの方が木材に触れ、楽しむことができる場を提供します。

取り組み実績	●「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設」の整備について、地域住民との意見交換において、木材などの里山の資源にふれ楽しむことができる機能として、工房を設置することとした。また、関連事業者を交え工房の役割や機能、課題について整理した。 ●「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設」の整備について、地域住民と事業者を交えワークショップや意見交換を行った。結果を踏まえ、里山環境の再生と活用の拠点となり、里山に関わる人を増やす施設として整備することや都市計画上の制限・整備エリア等について方向性を定めた基本構想を策定した。また、拠点施設の機能や里山環境の活用に関連する事業者を対象にマーケットサウンディング調査を実施し、事業者参画につながる提案を受け付けた。サウンディング調査の結果を踏まえ、里山の資源量調査（樹木の状態調査）を実施し、事業者へヒアリングを行った。	
評価	成果	●品質 ●投資 ●資源活用 ●観光 基本構想により、里山の空間活用について方針をまとめることができました。また、サウンディング調査や資源量調査を通じ、事業の市場価値や資源活用の可能性を検討することができました。 ●地域連携：ワークショップを通じ、地域住民のニーズを把握することができました。 ●ブランディング：「まちだの里山」の活用保全の重要性を地域住民へ周知することができました。また、サウンディング調査等を通じて「まちだの里山」の活用意義について民間事業者に周知を行うことができました。
	課題	●品質 ●投資 ●資源活用 ●観光 計画当初からスケジュールが変更されました。 事業者が施設運営参入に意欲を持てる運営手法やビジョンの設定が必要です。 基本構想に基づき、効果的な施設整備地・規模・機能・利用シーン・整備及び運営手法等の検討が必要です。

小山田エリア	リーディングプロジェクト2	農を活用した地域の賑わいゾーンの創出			
対応する基本方針		里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる
地域の農業従事者や住民、企業等との連携により、来訪者が「農」をテーマとした体験や農産物の購入など地域住民と交流ができる場や機会を充実し、日常的な地域の賑わいの創出につなげます。					
取り組み実績	●「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設」の整備について、地域住民と事業者を交えワークショップや意見交換を行った。結果を踏まえ、里山環境の再生と活用の拠点となり、里山に関わる人を増やす施設として整備することや都市計画上の制限・整備エリア等について方向性を定めた基本構想を策定した。 - また、拠点施設の機能や里山環境の活用に関連する事業者を対象にマーケットサウンディング調査を実施し、事業者参画につながる提案を受け付けた。 - サウンディング調査の結果を踏まえ、里山の資源量調査（樹木の状態調査）を実施し、事業者へヒアリングを行った。 ●野中谷戸を活用した賑わいゾーンの創出について農をテーマとしたイベントの試行に向け検討を再開した。				
評価	成果	●品質 ●投資 ●資源活用 ●観光 - 基本構想により、里山の空間活用について方針をまとめることができました。また、サウンディング調査や資源量調査を通じ、事業の市場価値や資源活用の可能性を検討することができました。 ●地域連携 ●担い手 - ワークショップを通じ、地域住民のニーズを把握することができました。 ●ブランディング：「まちだの里山」の活用保全の重要性を地域住民へ周知することができました。			
	課題	●品質 ●投資 ●観光 - 計画当初からスケジュールが変更されました。 - 事業者が施設運営参入に意欲を持てる運営手法やビジョンの設定が必要です。 - 基本構想に基づき、効果的な施設整備地・規模・機能・利用シーン・整備及び運営手法等の検討が必要です。 ●地域連携 - 拠点施設について、地域住民の交流空間実現のため、地域住民を巻き込んだ空間活用の検証が必要です。			

小山田エリア		リーディングプロジェクト3		地域の課題解決につながる取組の推進			
対応する基本方針			里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる	
①環境の保全につながる事業を実施します							
再生した山林等を活用し、地域の賑わいの創出を図り、持続可能な環境の保全につながる事業を地域住民や来訪者、団体・企業等と連携・協働して実施します。							
取り組み実績		●小山田おこしの森において、地域の住民や団体、企業と連携し、小学生を対象としたイベントを企画した。（天候不良により中止） ●鶴見川源流保水の森において、小山田小学校の児童を対象に、萌芽更新・伐採体験イベントや里山散策、ヤブカンゾウ苗植え体験などのイベントを実施し、自然環境の保全や再生について学ぶ機会を提供した。 ●鶴見川源流保水の森で活動するNPO法人により下草刈りや水路補修、休耕田を活用した調整池整備等を実施した。 ●団体により未利用の市有山林の活用を図った。 ●地域住民や団体、企業等と連携し、「里山体験クラブ感謝祭　里山クリーンアップ大作戦」として木工体験や里山に触れる機会の提供や地域の清掃活動を実施した。					
評価		成果	●品質：計画的な枯損木伐採や調整池整備等、活用を見据えた山林再生に行政・市民団体等が連携して取り組み、市有山林の植生状態が改善しました。 ●地域連携　●観光：団体と地域の連携によるイベント実施が行われました。 ●担い手：山林や耕作放棄地の整備・活用を行なう農業者や市民団体の発掘が行えました。 ●学び：地域の子ども達を対象に、里山について学ぶ機会を創出することができました。				
		課題	●品質：持続的な里山環境の維持が求められます。 ●地域連携　●担い手　●観光 里山との関わり方を多様化し、担い手として関わることへのハードルを低くしていく事が必要です。				
②（仮称）里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施します							
里山に携わるすべての人たちによる、（仮称）里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施し、里山の清掃活動を通じて、里山環境が抱える課題や環境保全への理解を里山への親しみや愛着につなげ、里山環境の保全を持続可能なものとします。							
取り組み実績		●地域住民や団体、企業等と連携し、「里山体験クラブ感謝祭　里山クリーンアップ大作戦」として木工体験や里山に触れる機会の提供や地域の清掃活動を実施した。 ●2024、2025年度については地域住民や市民団体と実施に向けた協議を行ったが実施には至らなかった。					
評価		成果	●投資　●担い手　●地域連携　●資源活用　●観光 団体と地域の連携によるイベント実施が行われました。また、民間事業者と連携することで地域参入の可能性を広げられました。				
		課題	●担い手　●地域連携 継続的な実施が実現できるよう、実施主体との協議が必要です。				

③散策ルートの再整備とマップの作製に取り組みます

荒廃して通行が困難になった道を再整備します。あわせて、道標の設置、散策ルートを示したマップの作製を行うことで、私有地への立ち入りをなくしていきます。

取り組み実績	●「町田市総合健康づくり月間」のイベントとして「里山健康散策花のある道づくり ヤブカンゾウの苗植え体験」を実施し、鶴見川源流保水の森の散策路沿いの景観づくりを目的に、参加者がヤブカンゾウの苗を植えた。 ●鶴見川源流保水の森において、里山散策や保全活動に支障となる枯損木を伐採した。 ●鶴見川源流の森の散策マップについて、NPO法人と協議を始めた。	
評価	成果	●投資 ●ブランディング ●資源活用 ●観光 「健康」と「里山」をテーマとした里山活用を行なうことができました。 ●品質 ●担い手 ・計画的な枯損木伐採や調整池整備等や、活用を見据えた山林再生に行政・市民団体等が連携して取り組み、市有山林の植生状態が改善しました。 ・散策マップの作成に向けた協議を行うことができました。
	課題	●ブランディング ●資源活用 - 里山資源と多様な分野の結びつきを意識した取り組みの推進が必要です。 ●品質 ●ブランディング ●資源活用 ●観光 - 散策ルートの再整備及びマップ作成の試験実施には至りませんでした。引き続き実現に向けた協議を継続する必要があります。
総合評価	○	●品質 ●投資 ●資源活用 ●ブランディング ●担い手 ●観光 ・拠点施設整備を軸に、様々な立場の人による里山資源の活用等についてあり方を検討し、基本構想として方向性をまとめることができました。基本構想に基づき、拠点施設の実現に向けた取り組みの推進が求められます。 ・拠点施設整備について前期実行計画期間のスケジュールに変更が生じました。 ・散策ルート、マップ作製について前期実行計画期間内の試験実施に至りませんでした。 ●地域連携 ●担い手 - 団体と地域の人々が連携するなど、多様な里山活用の取り組み方が実践されました。

小野路エリア	リーディングプロジェクト1	竹林の再生と活用			
対応する基本方針		里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる
週末ごとに自転車や散策を楽しむ人が訪れていることから、来訪者の休憩や来訪者と地域住民の交流の場など、里山をより身近に感じ楽しむことができる拠点となる施設を整備します。					
取り組み実績	●商工会議所や市内事業者と連携し、市内産メンマの事業化について意見交換を実施した。 ●民間企業および団体と連携し、小野路エリアの竹（幼竹）を活用した加工食品（メンマ）を試作した。 ●団体が加工した市内産メンマを、市職員を対象に販売し、メンマおよび竹の活用に関するアンケート調査を実施した。 ●「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会に参加し、現場体験について都内の自治体と連携し実施した。 ●学校法人と連携し、小野路の竹林を活用した企画を実施した。				
評価	成果	●ブランディング：町田市の幼竹を食材とした加工食品の試作から試験販売まで実施ができました。 ●品質：竹林再生と活用に行政・市民団体等が連携して取り組み、市有山林の植生状態が改善しました。 ●資源活用：里山資源（木材、竹）の活用方法を検証できました。活用の仕組み構築が行えました。 ●担い手：官学連携の仕組みを構築できました。 ●学び ●観光：学生や区民を対象にまちだの里山について学んでもらう仕組みが構築できました。			
	課題	●品質 ●資源活用 ●地域連携 ●担い手 ●観光 これまでの実績を踏まえた持続可能な維持管理の体制、資源活用の仕組み作りが必要です。			

小野路エリア		リーディングプロジェクト2		地域の課題解決につながる取組の推進			
対応する基本方針			里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる	
①散策ルートを再整備します							
散策などを目的とした来訪者が、里山を楽しむことができるように新たな散策ルートの整備や散策ルートの草刈りなどを実施し、散策しやすい環境を整えます。また、来訪者が私有地に立ち入ることがないように道標等を設置し、注意を促します。							
取り組み実績		●竹林の再生・整備に取り組む団体が林野庁の交付金を活用し、散策ルートの整備に向けた竹林再生に着手した。 ●奈良ばい谷戸周辺において、NPO法人が散策者の安全を目的にナラ枯れ被害木等の支障竹木の伐採や散策ルートを整備した。 ●奈良ばい谷戸において、NPO法人が田植えや稲刈り体験、さつま芋掘りやタケノコ掘りなどの体験イベントや里山の散策イベントを実施し、里山環境の再生や保全について学ぶ機会を提供した。					
評価	成果	●品質：森林・竹林再生に行政・市民団体等が連携して取り組み、安全な散策空間の実現と、市有山林の植生状態が改善しました。 ●資源活用 ●担い手 ●学び ●観光 団体によるイベント実施を通じ、里山について学ぶ機会を創出することができました。					
	課題	●品質：土地の活用及び木材搬出入に必要な空間整備の具体的な検討を進めることができました。 ●地域連携：事業に対する地域住民の理解を求めることができました。					
②（仮称）里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施します							
里山に携わるすべての人たちによる、（仮称）里山クリーンアップキャンペーンを企画・実施し、里山の清掃活動を通じて、里山環境が抱える課題や環境保全への理解を里山への親しみや愛着につなげ、里山環境の保全を持続可能なものとします。							
取り組み実績		●町内会や公共施設の指定管理者と協働し、里山散策と清掃活動を実施した。 ●奈良ばい谷戸において、NPO法人が田植えや稲刈り体験、さつま芋掘りやタケノコ掘りなどの体験イベントや里山の散策イベントを実施し、里山環境の再生や保全について学ぶ機会を提供した。 ●団体活動において、幼竹を活用したメンマづくりや竹灯籠づくり、流しそうめん台づくりなど竹を活用したワークショップを実施した。					
評価	成果	●品質：森林・竹林再生に行政・市民団体等が連携して取り組み、安全な散策空間の実現と、市有山林の植生状態が改善しました。 ●資源活用 ●担い手 ●学び ●ブランディング ●観光 団体によるイベント実施を通じ、里山について学ぶ機会を創出することができました。					
	課題	●品質 ●資源活用 ●地域連携 ●担い手 これまでの実績を踏まえた持続可能な維持管理の体制、資源活用の仕組み作りが必要です。					
総合評価	○	●品質 ●投資 ●資源活用 ●ブランディング ●担い手 ●観光 ・団体活動を軸に、活発な竹や里山空間の活用が行われました。 ・竹の活用や魅力的な里山空間づくりのモデルケースとして認知を広げる一方、更なる取り組み発展と持続可能なあり方の検討が求められます。 ●地域連携 ●担い手 団体と地域の人々が連携するなど、多様な里山活用の取り組み方が実践されました。					

相原エリア		リーディングプロジェクト1		連携・協働の体制づくり			
対応する基本方針			里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる	
①地域の課題解決や里山の活用につながる体制づくりに取り組みます							
地域の住民と既に活動する団体や企業等との連携を図り、地域課題の共有や今後の里山環境の活用につながる体制づくりに取り組みます。							
取り組み実績		●相原エリアの活動団体や相原中央公園、大地沢青少年センター管理者、周辺施設の山林を所有する一般財団法人から取組状況や今後の事業展開、大戸緑地（東京都保有）との連携などについて確認したが、体制づくりの検討には至っていない。 ●「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会に参加し、現場体験について都内の自治体と連携し実施した。					
評価	成果	●地域連携 ●担い手 ●学び ●観光 ・多様な活動主体と連携の在り方について検討することができました。 ・都内連携の仕組みを構築することができました。 ・区民を対象にまちだの里山について学んでもらう仕組みが構築できました。					
	課題	●地域連携 ●担い手 地域内の体制づくりの実現には至りませんでした。引き続き、検討をする必要があります。					
②地域で活動する若い世代との連携・協働のしくみづくりに取り組みます							
地域の住民、既存の活動団体、企業等と地域で活動する若い世代との連携・協働を促進するしくみづくりに取り組みます。							
取り組み実績		実績なし					
評価	成果	実績なし					
	課題	●地域連携 ●担い手 引き続き、検討をする必要があります。					

相原エリア	リーディングプロジェクト2	多様な主体の連携による里山活用の推進			
対応する基本方針		里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる
地域住民や大学・企業等と連携して、里山環境を活用したアートイベント等を企画・実施します。					
取り組み実績	●権現谷戸において、地域の団体に林野庁の交付金を活用支援を行い、竹林等の整備を行った。 ●大地沢青少年センターにおいて、地域の団体などと連携し、間伐体験や竹細工作り、ハイキングコースの散策など、里山環境を活用したイベントを複数回実施し、最大800名の参加があった。 ●相原中央公園 ・地域団体と連携し、伐採した木竹を炭や竹酢液などに加工して販売した。また、地域の小学校と連携し、シイタケのホダ木づくりを実施した。 ・近隣の美術大学と連携し、小学生以上を対象としたスケッチ教室を開催したほか、公園内で芸術展を開催し延べ327名の来場があった。 ・地域の小学生を対象に小枝を利用した鉛筆づくりや公園周辺の里山に自生する植物観察会などを実施した。 ●山林を所有する一般財団法人によって、境川源流への散策通路の整備を行った。また、地域の小学生を対象に林野体験学習を実施した。				
評価	成果	●品質 ●投資 ●担い手 団体による国の交付金等の活用で、山林環境を改善することができました。 ●地域連携 ●担い手 ●ブランディング ●観光 団体や公園管理者など、多様な主体によるイベント実施が活発に行われました。 ●学び：イベント実施を通じ、里山について学ぶ機会を創出することができました。			
	課題	●品質 ●投資 ●担い手 これまでの実績を踏まえた持続可能な維持管理の体制、資源活用の仕組み作りが必要です。			
総合評価	○	●品質 ●投資 ●資源活用 ●ブランディング ●担い手 ●観光 ・団体によって山林環境の改善が図られました。 ・改善された山林環境の持続可能な維持管理の在り方について検討する必要があります。 ●地域連携 ●担い手 ・団体と地域の人々が連携するなど、多様な里山活用の取り組み方が実践されました。 ・若い世代が参入しやすい仕組みづくりについて検討する必要があります。			

三輪エリア	リーディングプロジェクト1	連携・協働の体制づくり			
対応する基本方針		里山の環境を整える	里山の魅力を伝える	里山を体感する	里山ではじめる
美しい谷戸田のある風景など、豊かな自然環境の保全に向けて活動する団体との情報交換や必要に応じた支援に取り組みます。また、多くの人が自然環境を通じた学びや歴史にふれあえる機会を充実します。					
取り組み実績	●耕作が行われていない民有農地を市内の社会福祉法人に斡旋した。 ●三輪エリア内の「三輪緑地および周辺地」において、里山環境の再生や保全活動に取り組む団体からヒアリングを行い、現在の活動状況や課題を確認したが、地域の取組や魅力・価値を共有する関係づくりの検討には至らなかった。 ●地区協議会と連携し、「鶴川里山勉強会」を実施した。 ●山林の活用について、学校法人等と意見交換を実施した。				
評価	成果	●品質 ●資源活用 ●担い手 農地斡旋事業を活用し、低未利用地の活用を図ることができました。あわせて、農地として活用することで市内の農業活性化に寄与することができました。			
	課題	●品質 ●資源活用 ●担い手 低未利用地の活用を促進する必要があります。 ●地域連携 ●ブランディング ●担い手 活動団体と「まちだの里山」の価値を共有し、魅力的な里山づくりと来訪者・担い手の増加につなげる必要があります。			
総合評価	△	●品質 ●資源活用 ●担い手 土地の斡旋によって里山を使いたい人の支援を御実現することができました。 ●地域連携 ●ブランディング ●担い手 「まちだの里山」の価値を共有し、魅力的な里山づくりと来訪者・担い手の増加につなげる必要があります。			